〝還暦おやじ〟の新人農業者手帳

平成27年度新規就農者
遊佐宏文（ゆさ ひろふみ）

一、タネ蒔きのタイミングによる失敗

新規就農者の私にとって最大の弱点は経験不足です。いくら失敗が先生だと自分を納得させてみても、失敗の結果は翌年にしか活かせないという厳しい現実があります。経験豊富な先輩農業者の方々は、同じ失敗でも過去の経験を基にシーズン内の修正として無難に乗り切ることも可能でしょう。しかし、目の前の事象の持つ意味を理解できないままに時間が経過してしまうことが私の悩みです。

トウモロコシの栽培について次のようなことがありました。文献的な知識に基づき、トウモロコシのトンネル栽培に取り組みました。4月下旬に定植し、ペットボトルを黒く塗り、いわゆる〝湯たんぽ〟にして夜間のトンネル内の気温の低下を抑えることによって早期収穫ができることを期待したのですが、五月の暴風によるトンネルの維持管理に労力を要したほどに成果がありませんでした。せいぜい数日早く出荷できただけであり、地温が高くなってから通常通りに植えておくこととほとんど差がなかったのです。労力の掛け損という結果に終わりました。

▲トンネル内に置いた湯たんぽは期待ほどに効果が出なかった

これとは反対に、秋に収穫するトウモロコシが甘味が増しておいしいとの新聞情報を参考に種まきの時期を遅くしてみた結果、実が入る前に気温の低下が訪れ立ち枯れ状態で種を無駄にしました。

カッコウが鳴いたら豆を播けなどの話しを聞いたことがありますが、やはり長年の経験に裏付けられた種まきのタイミングがあるのだということを確認できたことがこの二年間の成果だったと思います。しかし、地球の気候も変動している昨今、これまでのことをしても失敗したり、新しい取り組みが意外に成功したりといったことが繰り返されるような気もしています。失敗を恐れず、毎年ひとつは何かに挑戦しようと思います。

▲トウモロコシ畑にて

二、農家はゼロサム社会の中にいる!?

一時期ゼロサム社会という用語がはやりました。経済成長が止まり資源や富の総量が一定となって、利益を得る者がいれば必ずその分だけ不利益を被るものが出てくるという、アメリカの経済学者サローの用語です。平成28年8月から9月に北海道を襲った台風や平成29年と30年の大寒波で全国的な野菜不足による価格の高騰。農地を洪水で流出してしまった農業者や予想外の雪害で野菜のみならずハウスがダメになってしまった農業者のことなどが報道されました。農家は必ず天候の影響を受け、天候が良くて豊作となっても価格が暴落してしまい、それを予防するためにトラクターで畑の野菜を踏みつぶすニュース映像がたびたび放映されたことを覚えています。最近では十勝で発生した水害でじゃがいもが品不足となりポテトチップスが生産中止になったかと思いきや、今年は一転生産過多（ひょっとして輸入過多??）となり、じゃがいも価格が暴落するなど決して他人ごとではありません。

私のように種播きの時期を間違った結果として収穫量が上がらないのは仕方ないとしても、精いっぱい努力しても天が味方してくれないからと言って〝ゼロサム社会〟で済ますわけにはいかないのも人情です。各種共済制度が私たちを守ってくれていますが、栽培した野菜が無駄なく食され、農業者の収益が安定し、更には食品ロスとして食べ物が廃棄されないように毎日天を拝むしかないのでしょうか??　（了）

（平成三十年七月十日記）